

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

87号

FB 港北区災害ボランティア連絡会

2020年11月

*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください



気候危機と厄介な内水氾濫を知ろう

9月に来た台風10号の接近では気象庁が今までにない広報をしました。「100年に一度」とその規模と被害の大きさについて注意喚起をしたのでした。幸い九州の西岸をかすめるコースとなったため、まだ復旧作業が続く球磨川流域の被災地も胸をなでおろしたことと思います。しかしその際気象庁が発した「100年に一度」の言葉に最近の気象現象の異常さが表れています。8月の日本近海の海水温は例年にない高さだったことも台風の勢力に関係があります。「50年に一度」はおなじみの言葉になりました。その原因は地球温暖化です。

地球温暖化を防げるか

気象庁の記録を見ると最高気温上位20箇所はすべて40度を超えています。そのうち13箇所はこの4年間で出た記録です。いかに最近暑くなっているかですが、その原因は人間の経済活動です。エネルギーを大量に消費し、地球を温める炭酸ガスをどんどん放出する経済活動は私たちに便利と豊かさをもたらしました。しかしそのつけが地球温暖化となり、荒ぶる気象災害の多発となっています。いま私たちの生活の見直しをしないと、子供たちの将来を危うくするといつてよいでしょう。そして今後の災害を食い止めることはむずかしくなるでしょう。

港北区は安心？

暴れ川と恐れられてきた鶴見川も最近では堤防が壊れたり、堤防を乗り越えたりしての出水は殆ど無くなりました。しかしその危険性を確認するために洪水ハザードマップで自宅の地域の危険度を知ることは必須です。筆者も50年前だが内路交差点近くに住んでいた時に近くの小さな川が溢れて床上浸水した経験があります。そんな経験が薄らぐ中、短時間の集中豪雨などで下水管

があふれたりする内水氾濫への警戒感はどうでしょうか。

内水ハザードマップ

これを見た人はどれだけいるのでしょうか。横浜市のホームページから見る事ができるので、ぜひ確認しましょう。

内水氾濫は局地的に起きます。港北区の内水ハザードマップで目が行くのが菊名駅周辺です。40年前くらいまでは良く水が出た菊名駅周辺ですが、もともと川があった地域です。水田地帯だったと聞く樽町や小机駅周辺、そして新しい路線を地下に建設中の新横浜駅前も想定区域です。



横浜駅周辺の出水状況(2004年10月)

現在の横浜市の下水道の設置基準は 10 年確率（10 年に一度の降雨量）が 60mm/1h で設計しているそうです。しかし 2004 年 10 月の台風 22 号ではそれに耐えきれず横浜駅周辺で内水氾濫を起こしてしまったのをうけ、整備基準を 30 年確率の 74 mm/1h に上げ、将来的には 50 年確率の 82 mm/1h まで向上させる計画を持っているそうです。

これで安心横浜市？

とは簡単に言えないのが最近の降雨状況です。ちなみに台風 22 号の時間最大雨量は市内で 76.5 mm だったそうです。最近の降雨では 100mm を超すケースは多発しています。その原因が、異常気象です。昨年箱根を襲った豪雨は一日降水量で新記録となる 900 mm/日を超える雨が降ったのです。雨の原因は雲ですが、雲は空気中の水分が上昇し、冷えてできるものです。海水温が高かったり、気温が高いと空気中の水分が増えますから、雨の元である雲もできやすくなります。その気温上昇の原因は地球温暖化です。

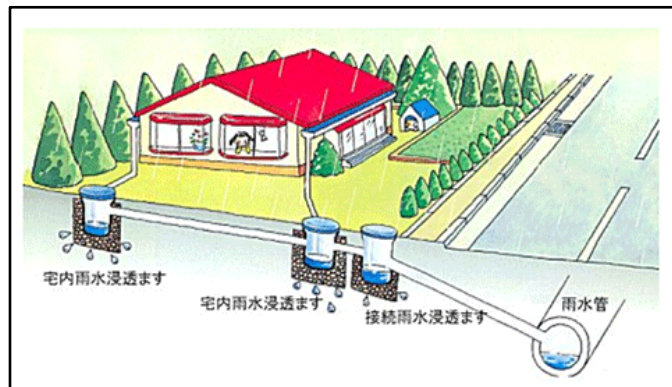
近くで見かける氾濫対策

行政が推し進める氾濫対策が実は身近にたくさん隠れているのです。その一つが「調整池」です。大きなものは鶴見川遊水池ですが、マンションなどの開発で地下に水が浸透しなくなることから、マンションの地下に作るものまであります。下の写真のような表示が必ずあります。



個人宅でできる対策、浸透ます

下水道への負担を軽減する対策であり、地下水を保持することにもつながります。



助成制度があり、工事費を相当カバーできるので検討に値します。地域によって工事許可が出ないところもあるので確認が必要ですが、個人でできることを進めていくことも大切です。

小さな被害にも周りの手を



昨年の台風 19 号では区内でも内水氾濫で床上浸水の被害にあったマンションがありました。被害数が少ないと周りの支援の手が差し伸べにくくなります。しかし浸水被害の

回復には大変な人手と時間がかかります。そんな方にも必携の冊子が震つな（震災がつなぐ全国ネットワーク）発行の「水害にあったときに」です。

この本では殆どの方が初めてとなる水害時に大事な手続きについて分かりやすく書いてあります。写真を撮っておくこと、重要な罹災証明の取り方、室内の片付け方、生活上の困りごとなどが被災現場での経験を積み重ねて書かれています。震災がつな

ぐ全国ネットワークの HP からダウンロードできます。ご活用ください。(宇田川)

新しくボランティア班に なられたお二人です

こども家庭支援課課長 岩井 裕子

新型コロナウイルスへの不安が高まる 4月に、港北区役所こども家庭支援課に参りました岩井裕子と申します。赴任した直後に「新型コロナウイルス緊急事態宣言」が発令され、こんな時に万が一大地震が発災したらどうなるのか、せめて今は起こらないでほしいと祈る気持ちの日々でした。きっと災害ボランティアのみなさんも同じ思いだったのではないのでしょうか。

今年は、12年ぶりに日本に台風が上陸しない年だったそうですが、昨年の台風 15号・19号による浸水被害はまだ記憶に新しいところです。そして未だにコロナの収束が見えない日々が続いています。

今年度港北区役所では、地域防災拠点には消毒用アルコールやフェイスシールドなどの感染症対策グッズを配備しました。また、災害時の避難所開設の際、必要に応じて段ボールベッドを調達できるように区内事業所との協定を締結しました。また、風水害時の早めの対応に備えて、「水害時の避難行動を考えよう」というパンフレットを



作成し、みなさんの避難行動のタイムラインをあらかじめ決めておけるような資料を整えました。これは区のホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。

かつては地震をおもに想定した防災も、風水害や感染症と、今までにない複合的な

災害も視野に入れて、平時の準備が必要なのかもしれません。今まで培ってきた災害ボランティアの皆様のご経験や知識とともに、新たな災害対策に向けていっしょに歩みを進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

こども家庭支援課こども家庭係長
今西 麻美

今年度4月から港北区役所こども家庭支援課こども家庭係長として着任しました今西と申します。昨年度は厚生労働省に派遣されており、それまでも教育委員会事務局、経済局におりましたので、区役所での仕事は初めてです。

私は南九州出身で、幼い頃から発生して間もない非常に強い台風がシーズン中に何度もやってくるような場所で育ちましたが、今日までこれといった甚大な被害に遭ったということはあまり聞きません。ただ記憶にありますのは、毎年台風が数回来ること前提で、どの家庭でも台風対策を施した備えを予め行っていたような気がします。地域防災について考えたときに、事前にいかに備えていたかが鍵になると思います。昨年度の令和元年東日本台風は、これまでからは想像もできないほどの被害をもたらしました。当たり前とは思いたくありませんが、いつ何があっても大丈夫と思えるくらい備えておく、そのために地域で防災に取り組んでいくことの大切さを思うと、区役所での業務の中で防災業務は特別に重要だと感じます。

大変未熟ではありますが、皆様にご協力賜りながら取り組んで参りますので、何卒よろしくお願いたします。



原さんちの防災対策

地域子育て支援どろっぽ 原美紀

防災対策は「常日頃からの備え」というメッセージは当たりまえのようにとらえられていますが、我が家の防災対策は同居家族としては多い、5人家族なので、備蓄もそこそこの量が問われます。

とくに食材については、古いものを普段のメニューに取り入れながらのメンテナンスをし、過ごすことを目標にしていますが、なかなか備蓄管理という視点でルーチン化できないことが悩みでした。

仕事柄、家庭防災員の方々から教えてもらう機会があり、災害時を想定して冷蔵庫内のものを1日3食でメニューを考案し、食べ切るシミュレーション写真を防災訓練時にパネル展示で見せてもらったことがありました。

今状況下の新型コロナウイルス感染予防のこの時期こそ、なかなか取り組めなかったこの試行にチャレンジしてみようと思い立ちました。すると雑然としていた庫内もすっきり、確実なフードロス、有事の際の行動予測と一石三鳥くらいの成果につながりました。

ただやはり一番大事にしているのは「近所との交流」です。現宅に居を構えて早10年。最初の数年間は同じ町内、同じ班で生活する近所の方とは外出の際やゴミ出しの際のご挨拶程度しか関係がなかったのですが、5年目くらいになって各ご家庭のお子さんが増えたところで、班内に地主(大家)さんの邸宅があり、大家さんご家族総出でのご協力のもと、ご自宅のお庭や駐車場をお借りしてBBQ企画やお正月には餅つきを企画するようになりました。食を伴う交流はまさに時を変えれば避難時の炊き出しと同じです。食材を持ちより、火をおこし、役割分担をしながら手際よく限られた資源で

大勢の食を準備し、暖を取りながら食を囲む・・・こんな楽しい交流こそが有事の際の声かけ、支え合いに繋がっていくことを実感します。

こういった企画にほぼ10家庭が毎回、家族単位で集えるのは今時期、貴重なことと思いつつ、こうした機会、場を提供して下さる地主さん、そしてこうした取組みを町会としても応援してくださっていることにも感謝です。

ささやかな自助と温かい共助こそ、今の自分にとって有難い日常であり最大の防災対策だと感じています。

中島美奈子さん

地域貢献で社協から表彰

会員の中島さんは長年民生委員を務められたり、町内会活動を熱心に行ったりしてこられました。その功に対し港北区社会福祉協議会から地域活動功労の表彰を受けられました。災ボラでも熱心に活動続けてくださっており、これからも地域活動の経験と知識を生かしていただきたいと思います。

編集後記

☆ラインを始めた会員の方からご挨拶いただきました。いつまでもチャレンジ大事ですね。

(宇田川)

☆「原さんちの防災」に書かれているように、温かい共助こそ本当に防災対策ですね。

(付岡)

☆調布ほどひどくなかったですが、港北区の横浜環状北線工事でも陥没や亀裂が生じました。

(室伏)

☆チャレンジといえば、8年振りにWindowsを触ることになりそうです。私の中でWindowsは2000で終わっているのですが・・・

(中島)

☆水害は地震と違い予測できる災害ですが、被災後の暮らしは同様に厳しいことを痛感です。

(一政)